

国営吉野ヶ里歴史公園管理運営プログラム



平成29年3月28日

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況等	1
(1) 全体計画	1
(2) 供用の経緯	5
(3) 利用の状況	6
2. 平成32年度までの管理運営の方針等	7
(1) 平成32年度までの管理運営の重点事項	7
(2) 管理運営方針	8
(3) 事業効果	13

1. 全体計画及び開園状況等

(1) 全体計画

国営吉野ヶ里歴史公園は、我が国固有の優れた文化的資産であり、平成3年5月に国の特別史跡に指定された吉野ヶ里遺跡の保存と活用を図るため、都市公園法第2条第1項第2号口の規定に基づき平成4年10月の閣議決定を受け事業化された、計画面積約54haの国営公園です。さらに、遺跡の環境保全と歴史公園としての機能の充実を図るため、佐賀県立公園約63haと一体となった、総面積約117haの吉野ヶ里歴史公園として整備しており、国営エリアはH27年度に概成し、県立エリアは平成29年に概成予定です。区域の大半（約50ha）が特別史跡区域を含む史跡指定地であることから、遺構面が傷つかないように保存盛土等の処置を講じた上で弥生時代の環壕集落を復元し、「弥生人の声が聞こえる」という基本テーマのもと公園整備を進めてきました。



<位置図>



<区域図>

基本テーマ

「弥生人の声が聞こえる」

基本方針

- ・ 遺跡の保存と活用
- ・ 魅力ある風景・環境づくり
- ・ 新しい歴史文化の創造
- ・ 国際交流の拠点として
- ・ レクリエーション環境の整備
- ・ 地域振興の一翼を担う

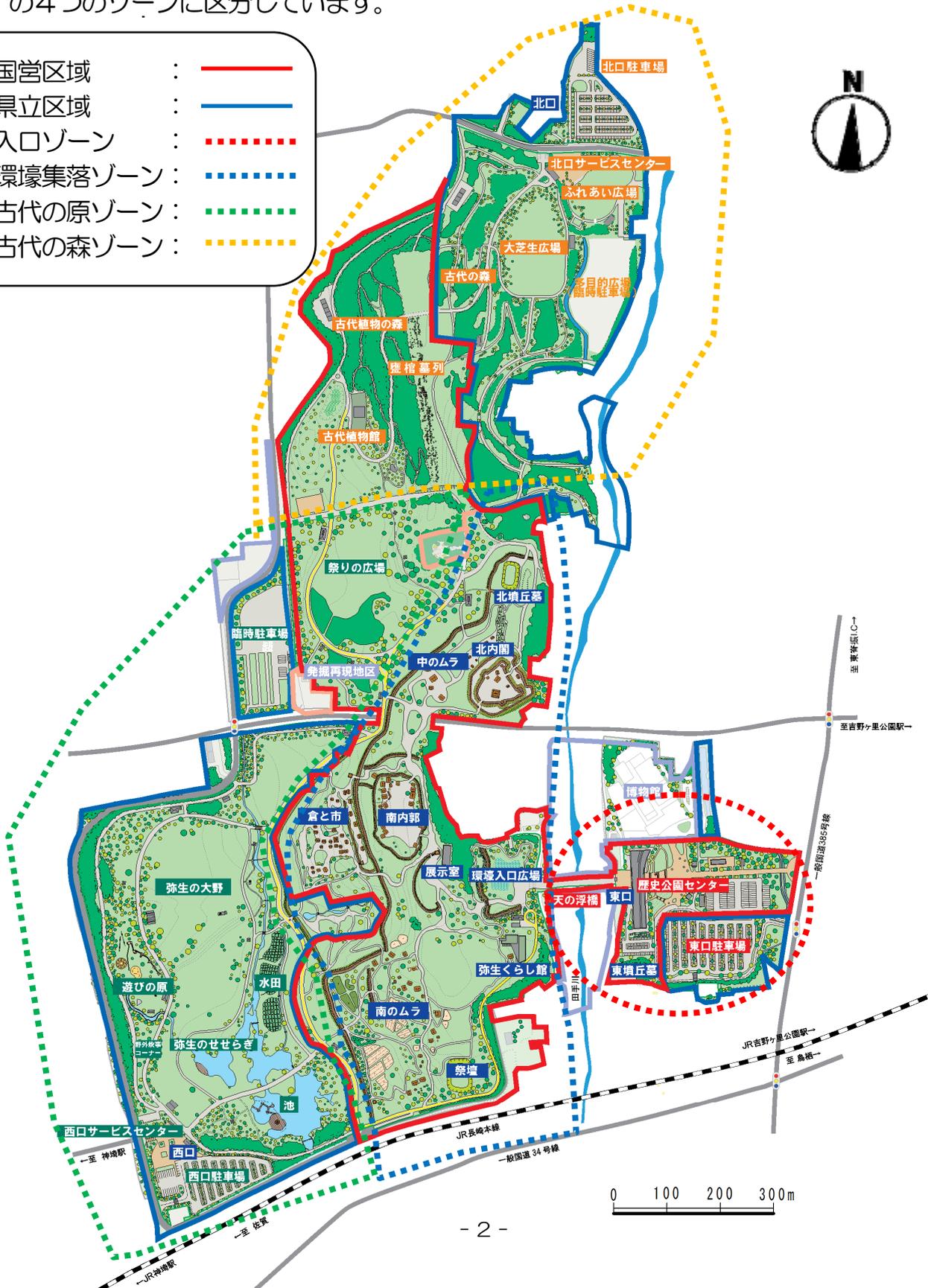
【吉野ヶ里歴史公園の基本理念】

吉野ヶ里の遺跡の保存を通じての本物のこだわりと、適切な復元やわかり易い手触りの展示などの遺跡の活用を通じて、弥生時代を体感できる場を創出します。

【供用区域及び主な施設】

○開園区域を「入口ゾーン」「環境集落ゾーン」「古代の原ゾーン」「古代の森ゾーン」の4つのゾーンに区分しています。

- 国営区域 : —
- 県立区域 : —
- 入口ゾーン : - - -
- 環境集落ゾーン : - - -
- 古代の原ゾーン : - - -
- 古代の森ゾーン : - - -



○入口ゾーン

歴史公園センター	天の浮橋
 <p>公園のメインゲート、JR吉野ヶ里公園駅からの入口です。ガイドンスルーム・ミニシアター、休憩所や多目的ルームを備えています。レストラン・売店を併設しています。</p>	 <p>入口ゾーンと環壕集落ゾーンを結ぶ橋梁です。「弥生人と現代人の声が行き交う橋、歴史のロマンとゆとりの水平空間を基本テーマとして造られました。</p>

○環壕集落ゾーン

南内郭	北内郭
 <p>物見やぐら4棟や王たちの家、煮炊き屋など、王たちの居住空間も含め20棟の建物が復元されています。</p>	 <p>吉野ヶ里集落の中で最も重要で神聖な場所とされており、当時のまつりごとが行われていた所と考えられています。巨大な祭殿をはじめ、9棟の建物が復元されています。</p>
北墳丘墓	倉と市
 <p>約2100年前の歴代の王やそれに近い身分の人が埋葬された特別な墓です。墳丘の中からは14基の甕棺が出土し、そのうち1基には青銅の剣とガラスの管玉が、7基には青銅の剣が埋葬されていました。</p>	 <p>吉野ヶ里の「クニ」の交易の中心地と考えられています。出入りを監視するやぐらや物を保管する倉庫、市を管理する市楼など31棟の建物が復元されています。</p>
南のムラ	弥生くらし館
 <p>「下戸」と呼ばれる一般の人々が住んでいた区域で、竪穴住居や高床倉庫など27棟の建物が復元されています。</p>	 <p>南のムラのガイドンス施設及び体験工房です。体験工房では勾玉づくり・火おこし体験など、体験プログラムの受付を行っています。</p>

○古代の原ゾーン

祭りの広場	ベニバナ畑
 <p>祭りの広場は、かつて祭祀が行われていた北墳丘墓を望む場であり、北墳丘墓や北内郭を背景として、各種イベントや催し物が行える広場として草地を主体とした広がりのある空間です。</p>	 <p>祭りの広場内の畑では季節ごとにベニバナ、ソバなどを栽培しています。ベニバナは、例年約10万本の花を栽培し、毎年「染色体験」などにも利用しています。</p>

○古代の森ゾーン

古代植物の森	甕棺墓列
 <p>古代の植物の森は、花粉・種子分析などの調査結果をもとに、弥生時代の樹林を推定し、当時の森の再現を図っており、観察や散策等ができます。</p>	 <p>全長300メートルにわたり、約500基からなるスケールの墓列を中央の墓道とともに再現しています。</p>
<h3>古代植物館</h3>	 <p>ひみか やよい <公園マスコットキャラクター></p>
 <p>古代植物の森の拠点となる施設で、森を通じた様々な学習・体験ができます。組みも、染色体験などの体験プログラムの受付を行っています。</p>	

(2) 供用の経緯

国営吉野ヶ里歴史公園が位置する地域は、昭和56年に工業団地計画が持ち上がり、昭和61年から大規模な発掘調査が開始されました。平成3年5月に吉野ヶ里遺跡が国の特別史跡に指定されたことを契機に、官民一体となった取り組みが押し進められた結果、平成4年10月の閣議決定を受け国営公園として事業化され、平成5年3月の都市計画決定、同年5月の基本計画の策定、平成6年3月の都市計画事業の承認を経て、平成7年11月より整備が進められ平成27年度末に概成しました。

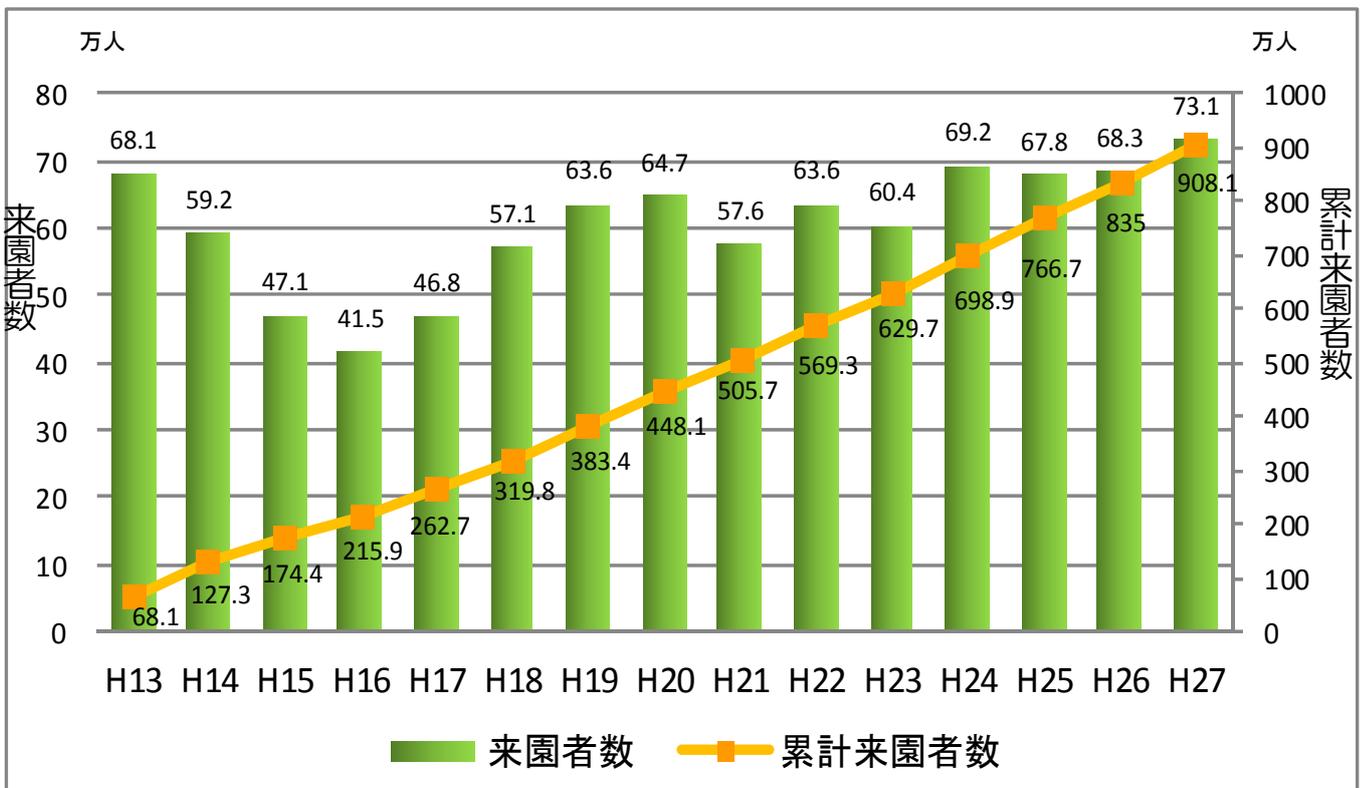
年 度	項 目	供用面積
昭和56年6月	工業団地の検討着手	
昭和61年5月	文化財の発掘調査開始	
平成3年5月	吉野ヶ里遺跡が特別史跡に指定	
平成4年10月	閣議決定	
平成5年3月	都市計画決定	
平成7年11月	工事着手	
平成13年4月	歴史公園センター、北内郭、南内郭等供用開始	16.3ha
平成14年4月	環壕入口広場の一部供用開始	0.9ha
平成15年4月	環壕南広場（南のムラ）外周園路供用開始	2.2ha
平成17年4月	祭りの広場供用開始	7.4ha
平成18年4月	南内郭広場の一部供用開始	0.8ha
平成19年10月	環壕南広場（南のムラ）供用開始	9.0ha
平成20年2月	北墳丘墓供用開始	1.7ha
平成25年3月	古代の森供用開始	11.0ha
平成25年6月	古代の森、北内郭広場供用開始	1.6ha
平成26年4月	入り口ゾーン（東墳丘墓）供用開始	0.4ha
平成28年4月	古代の森（概成）供用開始	1.5ha
	供用面積 計	52.8ha

(3)利用の状況

開園した平成13年度の年間来園者数は約68万人でしたが、オープン効果の希薄化や北部九州観光の低迷等により来園者数は年々減少し平成16年度には40万人程度まで落ち込みました。

しかし、平成17年度に利用促進行動計画を策定し、福岡都市圏への重点的な広報活動、効果的な媒体を活用した広報、イベントの充実、体験プログラムなどを実施した結果、増加に転じました。

現在では定期的な軽トラ市の開催やインバウンド（訪日外国人観光客）の増加の影響を受け来園者数も更に増加し、昨年平成27年度には開園以来最高の73万1千人を記録しました。まもなく累計の来園者数が1000万人に達する見込みです。



2. 平成 32 年度までの管理運営の方針等

(1) 平成 32 年度までの管理運営の重点事項

日本最大級の弥生時代の環壕集落跡である吉野ヶ里遺跡の大切さを後世に伝えるために、当公園の基本テーマ「弥生人の声が聞こえる」を実践しながら、高齢者・障がい者・外国人等含めた全ての人の快適な利用への配慮、地域振興への対策等の社会的要請にも積極的に応えていくために、平成32年度までの重点事項を以下のように決めました。

【平成 32 年度までの管理運営重点事項】

○国の特別史跡や県の史跡に指定されている吉野ヶ里遺跡を適切に保存するとともに、魅力ある風景環境づくりを目指します。

○園内の移動や施設利用、情報提供等においてユニバーサルデザインを推進し、全ての利用者が安全で快適に楽しめる公園を目指します。

○歴史公園にふさわしく、周辺地域の歴史的・文化的資産との連携を図り、広域観光の拠点として、国際交流の促進及びまちづくりの核として地域振興の一翼を担う公園を目指します。

○復元された環壕集落施設・古代の森等を活用した演出や体験プログラムの充実を図り、体験等を通じて歴史・環境など、弥生時代を感じる歴史のロマンあふれる魅力ある公園を目指します。

(2)管理運営方針

○「吉野ヶ里らしさ」の充実と地域連携の強化

我が国の歴史についての理解を深めてもらえるよう、吉野ヶ里遺跡の価値や魅力、復元された環壕集落施設や体験プログラム等を活かし、弥生時代を感じることに出来る柔軟な管理運営を目指します。

また、地域の多様な生物の生育に適した自然環境を創出し、自然や環境学習に優れた歴史公園として多彩な魅力が発揮できるよう管理運営を行います。

さらに、地域に貢献できる公園として県立公園と連携し地域イベントを積極的に実施していきます。

・公園の維持管理

①復元建物等の計画的な補修

吉野ヶ里歴史公園の基本理念である、弥生時代を体感できる場の創出として、本物にこだわった遺跡の復元・展示があり、天然材を使用した建物を多数復元しています。その劣化予防保全として、復元建物の屋根については強風や鳥による屋根のヨシ材の抜け落ち防止のため屋根表面に網掛けし、また、防腐処理等による木柵の補修等も含めて計画的な補修を実施することで、ライフサイクルコストの低減を図ります。



<屋根の計画的な補修>

<腐食した木柵への防腐剤処理等による補修>



<補修前>



<補修後>

②歴史的景観づくり

植栽地（植込地、芝生、樹木、草地等）について、歴史的景観づくりとしての当初の植栽意図を踏まえ、在来種等の保護に努め、各植物の特性に配慮したうえで、適正に持続・育成するよう管理を行います。

③利用者の快適な利用及び安全安心の確保

誰もが安全かつ快適に利用できる公園となるよう、施設のユニバーサルデザイン化・案内サインの多言語化・Wi-Fi環境の整備、巡視・保安、救急対策を行うとともに、サービスの質や安全性向上のために職員の指導・育成に努めます。

④長寿命化・コスト縮減の取り組み

常に安全安心で快適な利用を図りながら、復元建物については、劣化進行を抑えるため、防虫対策として燻蒸作業、強風や鳥によるヨシの抜落ち対策、植物管理において園内の除草等の堆肥化に取り組むなど維持管理にかかるコストの縮減に努めます。



〈景観づくり(赤そば畑)〉



〈園内で発生した除草等の堆肥化の取り組み〉



〈車いす昇降装置〉



センサー式
音声ガイド

〈トイレの洋式化・音声案内〉



〈飛散防止等網掛け状況〉



〈燻蒸作業の様子〉

・公園の運営

①吉野ヶ里遺跡の活用

特別史跡としてその価値をより高めるために、遺跡の活用という側面から、復元施設およびそのエリアを活用した事業を実施し、楽しく学べ、そして弥生時代を体験・体感できる新しい歴史文化を創造できる公園づくりを行います。

②行催事の実施

魅力ある公園とするために、弥生時代を想起させる勾玉づくりや火おこし体験、竪穴住居での宿泊体験など多彩な魅力ある体験プログラムの実施や地域と共同・協力した行催事を効果的に実施します。

③国際交流

佐賀県、地元自治体と連携し国内外での幅広い広報を行い、歴史文化を通じて世界の国々と相互理解を深め、国際交流の拠点となる公園とするため、外国語対応の充実、教育機関等の会議・研修旅行の誘致を行います。



〈勾玉づくり〉



〈火おこし体験〉



〈台湾での鑄込(鏡製作)体験〉



〈タイでのPR〉

・多様な主体の参加と連携

地域の方々に愛される公園となるために、実際に参加、体験しながら楽しむ公園利用を進め、ボランティア等と連携して共に考え、行動し、これまで以上に利用者のニーズを反映した柔軟できめ細かな管理運営を目指します。また、ボランティアの活動拠点等の充実も図っていきます。

①市民との協働

現在公園運営に携わっているボランティアと良好な関係を築き、指導育成に当たるとともに、古代の森の保全に関する作業も含めて新しいボランティアを継続的に募集し、公園内での活動の支援に努めます。

②地域の活性化の取り組み

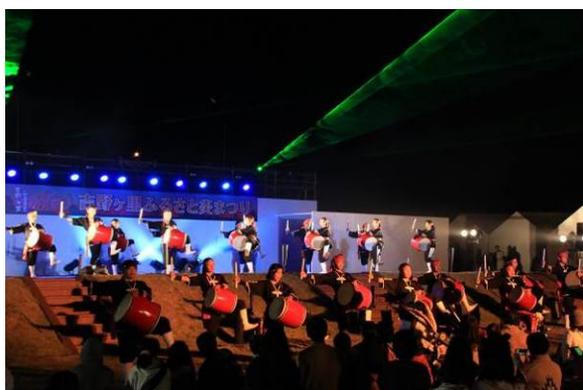
地元自治体と連携し、地域の行催事を積極的に誘致し、また、広域観光レクリエーションネットワークの拠点として、県内の観光地と連携した集客を行いまちづくりの核として地域の活性化に寄与します。



〈ボランティアによる体験プログラムの指導〉



〈ボランティアガイド〉



〈地域の行催事〉
毎年行われる吉野ヶ里町主催の
「吉野ヶ里ふるさと炎まつり」
の会場として活用されている。



〈地域の行催事〉
毎月行われる軽トラ市

③県立公園との連携

県立エリアでは、歴史ロマンが感じとれる「魅力ある風景の公園」づくりと、四季を通じて誰もが一日中気持ちよく楽しく過ごせるような「楽しい公園」づくりが目指されており、歴史的景観づくりに配慮しつつ、年間を通じて多彩な催し物、イベントが開催されています。

こうした県立エリアでの取り組みとの相乗効果を高め、公園全体の利用者数の増加や利用者満足度の向上を図るため、今後とも引き続き管理運営において連携を図って参ります。



〈さが桜マラソン〉



〈遊びの原ふわふわドーム〉

(3)事業効果

公園の事業を進めることで、以下のストック効果の発揮が期待できます。

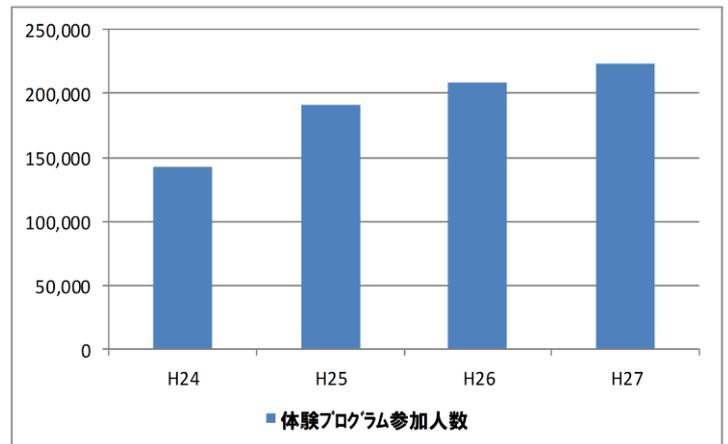
○学習効果(楽しみながら歴史に対する理解を深めることができる場の提供)

弥生時代の景観や自然環境を提供することで、施設見学や様々な体験を通して、来園者が楽しみながら、歴史に対する理解を深めることができます。

吉野ヶ里歴史公園は、日本の古代の歴史を知る上で貴重な施設であることから、佐賀県内小学校の社会科見学のみならず、九州各県および全国から修学旅行先として活用されており、団体

利用として年間7~9万人の利用があり、日本の歴史を知る上で重要な生きた教材となっています。弥生時代を想起させる体験プログラムへの参加人数も増加しています。

平成32年度迄に弥生時代の自然環境・復元施設の保全に努め、多彩な魅力ある体験プログラムの充実を図ることで、より楽しみながら弥生時代を感じることができます。



<社会科見学>



<修学旅行>



<竪穴式住居宿泊体験>

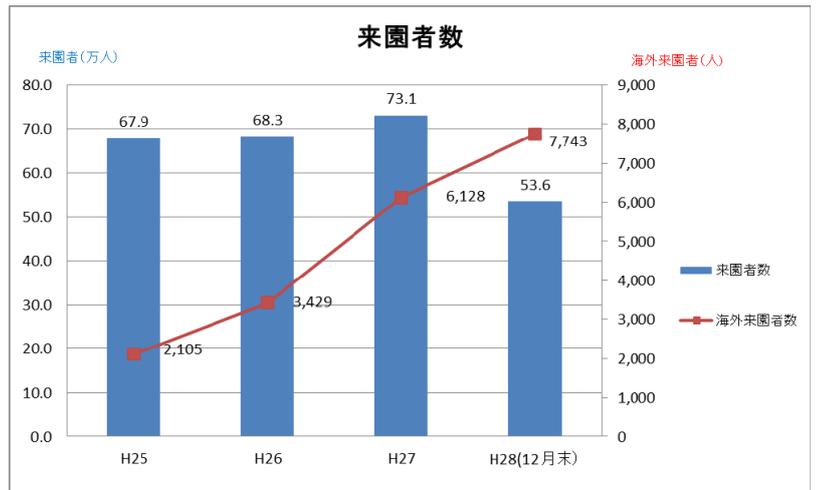


<そば収穫体験>

○インバウンド促進効果(海外来園者への対応)

近年増加する海外来園者に対応し、Wi-Fi環境の整備、パンフレットや園内サインの多言語化、多言語音声ガイドペンの導入、外国語対応可能なスタッフの配置等を行っています。

平成32年度迄に、更なるWi-Fi環境、案内サインの多言語化の充実や全ての利用者が安全で快適に楽しめる公園サービスの提供を図り、今後とも、海外来園者が快適に公園を利用できる環境の整備を進めるとともに、国内外での幅広い広報活動を推進することで更なる海外来園者の増加を目指します。



<海外来園者利用状況推移>

国内外での幅広い広報活動を推進することで更なる海外来園者の増加を目指します。



<外国語対応>

韓国語対応可能なスタッフ配置例



<Wi-Fi環境整備>



<多言語音声ガイドペン利用>



○地域活性効果(地域に根ざした公園づくり)

公園の管理運営への参加等を通して、地域に対する誇りや社会への参画意識の醸成、さらには地域の活性化に貢献できるようになります。

毎月開催される軽トラ市には、1万人前後の来園者で賑わっています。また、毎年秋には、吉野ヶ里町主催の「炎まつり」の会場として、1日に約1万～1万5千人もの参加があり、地域活性化に貢献しています。

平成32年度迄に多様な主体の参加と連携を図ることで、まちづくりの核として地域の活性化に寄与します。



<小学生によるアサガオのトンネル植付け>



<地元住民による田植え>



<吉野ヶ里ふるさと炎まつりにおける出店状況>



<毎月行われる軽トラ市>

- ◆ なお、本プログラムは、公園整備・管理を巡る社会情勢の変化、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。